

学校運営計画 (4 月)				評価 (年間)				
学校運営方針		次代を担う人間として、徳育・知育・体育の調和を図り、豊かな人格を涵養するとともに、自ら学び、個性を伸ばし、心身ともにたくましく、社会の発展に寄与する人間を育成する。		B				
昨年度の成果と課題		年度重点目標						
伝統校としての学校づくりを進めるための土台であった「春日きらめき計画」は、国公立大学合格者数の増加などの成果をもたらしたが、一方で生徒の主体的な学習や自主的な活動に課題を感じる場面も増加している。「させられる」学校生活から「する」学校生活へと生徒の意識変革を図る必要がある。そのためには、教職員の意識変革、学校組織の再編と教育課程の見直し等が急務である。そこで今年度のキーワードを「自主性の育成」と定め、その実現のために新しく「新きらめき計画」を策定、実践する。		具体的目標 「春日高校五常」とおして、人としての在り方・生き方など豊かな人間性を育ませる。				具体的目標 教師の率先垂範による「笑顔、挨拶、時間厳守、清掃活動など」凡事徹底を図る。 教育活動全般を通じて「自主的に取り組もうとする意欲やリーダーシップ、チームワーク、コミュニケーション能力」などの資質・能力を育ませる。		
		学ぶ意義について考えさせるなど、自主性を重んじながら「授業心得五行」を徹底し、学力の向上・深化を図る。				積極的な生徒観察により生徒理解を深め、強い信頼関係を築くとともに、いじめ撲滅や生徒のつまずきへの早期対応等に努める。 アクティブラーニング等の学習指導法について、研究・研修を深め実践し、生徒の能動的な学習態度を育む。		
		部活動や学校行事の充実・活性化を図る。				教職員の組織力を活用し、進路実現に向けた積極的な個別指導を行う。		
		多様な人やものの考え方への理解を深めさせ、仲間とともに積極的に協働する態度を育ませる。				日々の清掃活動を通して、美化意識を高揚させる。 様々なメディアを通して、これまで以上の積極的な広報活動に努める。		
						分掌の年間目標について中間時点等で評価し、必要に応じて修正・改善を加えながら、学校経営計画の実現を図る。		
				地域との連携を意識・実践し、さらなる信頼関係の構築に努める。				
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価 (年間)	次年度への主な課題				
教務部	教務課	習熟度別講座や選択授業使用講義室の割振り、年休出張や行事に伴う時間割変更時に適切に対応する。	A	A	・次年度の授業時数に偏りがないように、年間授業振替表を作成する。 ・生徒の希望進路や学習状況に則した教育課程・教務規程・教務内規の活用について検討する。 ・時間割作成・変更等に関する業務の更なる共有化を図る。 ・時間割作成や成績処理がより効率的に運用できるように、情報管理課との協力体制を築く。 ・キャリア教育課・各学年と連携し、心視の時間をよりよきものになるように協議する。 ・生徒の自主性が育つように委員会活動を活用する。 ・生徒の自主的学習態度の育成を目指し、生活時間調査の活用できるように各学年と協力体制を築く。			
		生徒の希望進路や学習状況に則した教育課程・教務規程・教務内規・追試制度の導入等を検討する。	A					
		同一類型・科目において、考査までの実施授業時数の偏りが出ないように、年間の授業振替表を作成する。	B					
		生徒が意欲的・自主的に学習に取り組む、学力を向上させるための指導の充実を図る。	時間割作成や成績処理システムがスムーズに運用できるように、情報管理課との協力体制を構築する。			B		
			学習環境、(教室内の備品等)の確認を担当者に依頼し、必要に応じて随時交換を進める。			A		
			キャリア教育課・各学年と連携し、心視の時間を活用しながら生徒の学習意欲向上を目指す。			A		
		個人成績の通知や成績上位者の掲示を通して、生徒の自信や向上心を刺激し、自主的学習態度を育成する。	A					
	生徒の学習習慣定着に向けた指導の充実を図る。	年2回の生活時間調査を活用し、各学年と連携しながら、生徒個人が学習記録を自らの学習習慣改善に繋げられるように支援する。	B	B				
		毎日の生徒の出欠状況の統計比較や部活動生徒の成績等の情報共有化を図り、文武両道の実践を支援する。	A					
	企画広報課	本校のよき伝統を受け継ぎつつ、新たな第一歩を踏み出せるような式典や諸行事の企画・運営を行う。	式典・諸行事において、生徒の自主性や愛校心を育むような企画・運営を行う。卒業式における椅子の配置、式歌の歌唱方法の再検討を行う。			B	B	○式典や諸行事においては、反省を早期にまとめ、次年度への検討事項について話し合いを重ね、よりよいものにする。 ○「中学生の体験入学」は運動会の2週間後の実施だったので準備がかなり大変だった。2学期初めから少しずつ準備を進めたい。 ○「中学生の体験入学」と「中学生学校見学会」は初めての形態が多かったが、限られた時間の中で、先生方や生徒達が柔軟に対応し、協力してくださったおかげで、組織的に運営できた。アンケート結果を見ても、比較的好印象だった。今年度の反省をまとめ、日程の設定や教員の役割分担を改善しながら、次年度のあり方を確定する。 ○「入学の手引き」や「学校要覧」の準備を早くから進める。 ○講演会や視察研修は出席率が高かった。 ○初の試みとして学校全体のPTA懇談会を実施したが、次年度はどのような形で行うかをPTAと協議していく。
			様々な災害に臨機応変に対応できるように、職員の役割分担を徹底するとともに、生徒の防災意識を高めるような防災避難の企画・運営に努める。防災避難訓練当日(5/26木)雨天の場合の予備日(5/27金)へのシフトを確実にする。			A		
		学業・部活動・学校行事等をアピールし、本校の魅力を伝えるように努める。	「中学生の体験入学」(9/24土)では、全体説明会・中学生との交流会・部活動見学を3つの柱として、情報管理課とタイアップしながら企画し、実施する。本校生徒が主体的に行動して、中学生との交流を深められるような方法を検討する。当日参加不可の中学生や保護者のために「中学生学校見学会」(11/5土)を設定する。			A		
		本校の各種行事案内(中学生の体験入学・大運動会の中学生招待・春日の風等)を6月末までに本校職員が中学校に持参し、本校の魅力を伝えられるように努める。学校案内パンフレットに「卒業生・在校生の声」等を掲載し、より充実させる。「春日の風」は年3回発行する。	B					
		春日祭でのPTAと生徒会共催出店・展示については、情報交換を密にして充実を図る。	A					
		春日祭でのPTAと生徒会共催出店・展示については、情報交換を密にして充実を図る。	A					
情報管理課	各業務に関連するICTについて環境整備を図る。	定期考査・外部模試・校内実力テスト等の成績処理について、マニュアルの明文化を進める。	B	B	①マニュアルの明文化と平行してそれらの情報を課内で教え合い共有すること。 ②成績大票や調査書などを公民の新科目増に対応させること。 ③業務の負担軽減に向けて、当該の分掌等に雛形を提供してマークシート読み取りソフトの活用を促進すること。 ④電子黒板(2台目)の設置場所を決め、利用を促進すること。			
		マークシート読み取りソフトや外字作成ソフト等の利用を促進し、業務分担の軽減を図る。	C					
		事務室と密に連携を取り、1階教室を中心にネットワークの延長を進める。	B					
	教職員のICT技術向上を図る。	企画広報課と協力し、迅速なメール配信やホームページの更新と閲覧の促進を図る。	A					
		ワード、エクセル等の主だったソフトウェアの使い方について、職員の要望に応じて助言を行う。	B					
		授業で使えるICT教材について、サーバーなどを通じての共有化を図る。	B					
視聴覚教材の管理を徹底する。	電子黒板を含めた機材の貸し出しについて、管理担当者を決め、その機材の所在を常に明確にする。	B	A					
	使い方の難しい機材については、必要に応じて使用法のマニュアル化を図る。	A						

生徒部	生徒指導課	生徒の主体的な活動の促進による、自主性と自己指導能力の育成。	様々な活動の中で「春日高校五常」を意識させるとともに、教師自らが率先垂範することにより、挨拶や時間厳守を励行し、自主・自律の姿勢及び態度を身につけさせる。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「春日高校五常」を学校生活全般において意識することができる工夫が必要である。 ・これまで以上に教師が率先垂範することにより、明るく元気な挨拶をする雰囲気作りや時間を厳守することへの意識作りを行う。 ・学校行事やホームルーム活動、心視の時間等において、生徒が主体的に考え行動できるように企画や運営の機会をより多く設ける。 ・学校行事等において生徒自身が企画及び運営の中心となりながらも、適切な場面で教師が助言・アドバイスをすることで、失敗を恐れないチャレンジを精神を養うことができるようにする。 ・部活動、同好会活動、社会活動等の充実・活性化のための支援を充実させると共に、学業との両立を図るための活動の工夫を講じる必要がある。 ・交通マナーや公共マナーについて生徒自身が考える契機を早期に設けることや校外の交通安全指導を工夫することで、マナー全般の向上を図る。 ・学校生活アンケートによる生徒の抱える問題や悩みへの迅速かつ丁寧な対応を今後も継続すると共に、様々な立場から生徒に接する中で、安心できる環境作りに努める。 ・下校時間を含め、時間を守ることの大切さに配慮し、生徒・教師の共通理解を促す。 	
			学校行事やホームルーム活動の充実・活性化を図るなかで、その目的や意義の理解のもと、企画・運営に取り組みせ、規範意識及び道徳心を育ませる。	A			
			学校生活全般をとおして、多様なものの見方・考え方への理解を深めさせ、他者への思いやりにあふれた「豊かな心」を養うとともに、明るい校風づくりに努める。	B			
		学校行事等を通して帰属意識やリーダーシップ、豊かな心を育む。	学校行事等の企画・運営を生徒自身に行わせる等、自主的に取り組む意欲や創造する喜びを体験できるように工夫し、「自主・創造の精神」及び「たかましい心」を養う。	B	B		
			生徒会執行部と各専門委員会を機能的に連動させることで、生徒会活動の活性化を図るとともに、活動内容の広報を適宜行うことで帰属意識を高める。	B			
			部活動の充実・活性化を図り、加入率85%以上を目指すとともに、「心」の指導を充実させることで、本校発展及び愛校心発揚の核となる生徒を育成する。	A			
	自他の安全を確保するための指導の充実及び継続。	交通安全教育の工夫と充実を図り、交通マナーを向上させるとともに、非行防止・防犯教育・自己防衛教育(SDE)を諸機関と連携して計画的に実施し、自他の安全確保と自己防衛力を高める。	B	B			
		「学校生活アンケート」等の有効活用による積極的な生徒観察や関係分掌との緊密な連携をとおして、いじめ撲滅や生徒のつまづきへの早期対応等に努める	B				
		生活全般において時間を意識した行動を行わせるとともに、全職員による下校指導をとおして、時間厳守への意識を高める。	C				
	保健課	保健指導を適切に行い、健康管理を積極的に行う姿勢を身につけさせる。	健康診断・日常の健康観察などをとおして、生徒が心身ともに健康的な生活が送れるように指導する。□	A	A		<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の体調不良者への保健委員帯同が全体の50%程度。全職員、生徒への徹底依頼。 ・生徒サポート委員会、スクールカウンセリング等「心の健康相談」事業の課内業務の明確化。 ・整美委員会関係(可燃物、ペットボトル、缶、瓶回収の徹底。ピカピカコンクールの充実。) 奉仕活動内容の検討 ・グリーンスタッフ委員会関係(古紙回収の徹底。生徒会専門員会入会の検討依頼。) ・日常掃除の指導・徹底(年度最初に掃除DVの視聴の定例化)
			心身共に問題を抱えた生徒の情報を共有し、担任・学年と連携して対応に当たる。	A			
			学校行事・ホームルーム活動・生徒会活動・部活動において、健康管理や安全指導に関する保健・安全指導を適切に行う。	A			
掃除に対する啓蒙活動を充実させることにより、美化意識の高揚とエコ活動の推進を図り、環境美化に取り組む。		整美委員会の活性化と計画的な校内美化活動の推進を図る。	B	A			
		安全点検を定期的に行い、安全で快適な学習環境を作る。	A				
		グリーンスタッフ活動の充実を図り、環境に優しい学校づくりを目指す。	A				

進路部	進路指導課	進路情報の共有化を推進するとともにデータ管理の簡素化と有効活用を図る。	進路関係の文書・データ情報の、サーバーまたはファイルによる共有化と一元化を進める。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各行事実施後の反省や訂正なども丁寧に残していくことを心がける。 ・情報管理課との連携を更に深めることによって、迅速な成績処理及び有用な資料提供をする。 ・マニュアル作成の担当者を明確にするとともに、基本的な型を設けるなどして、各担当がマニュアル化しやすい状況をつくる。 ・各学年での分析検討会を進路部がリーダーシップをとって実施していきたい。また、その分析会の結果を進路HRなどで生徒へフィードバックしていきたい。 ・「春風」は各学年(特に1,2年生)での有効活用を図るために、その活用について学年会や担任会等で提案していきたい。また、内容も更なる充実を図りたい。 ・進路説明会では、パワーポイントを用いるなどして、効果の高い説明を心がけたい。 ・2学年3学期の進路説明会について学年と連携しながら実施できるようにしたい。 ・土用活用講座について、様々な意見を全体から吸い上げて、実施日程・内容について検討すると共に、いま一度土用活用講座の在り方について、全職員の共通理解を図りたい。 ・校外模試の分析について担当・手順を明確化し、迅速に有用な資料を作りたい。 ・特に3年の放課後課外について本年度の状況を検証し、現制度でいかに生徒に自学させるかについて学校全体で検討できるように進路部から投げかけていきたい。
			情報管理課との連携を深め、データ処理の簡素化による迅速且つ正確な成績処理、進路資料・調査書等の作成を行う。	B		
			情報処理・管理等の各種業務をマニュアル化することにより、進路指導課内での共通理解を図る。	C		
		必要に応じた進路資料の提供や、進路検討会等の企画・立案をし、教員の進路指導力の向上を図る。	模試・学力テスト等における結果の分析・検討に必要な資料を効果的に提供する。	B	B	
			各学年において、模試等の結果分析会や進路検討会、進路HR等の企画・立案を行うことで、学年における進路指導のリーダーシップをとり、学年の態勢を構築する。	B		
			進路のしおり「春風」の内容の更なる充実を努め、各学年に応じた有効活用を図る。	B		
		進路関連の行事や課外・模試の充実により生徒の進学意識を高め、学力の向上を図るとともに、自主的に学習する態度を養う。	進路説明会等の実施により、生徒と保護者に入試システム等についての情報提供をし、受験に対する意識向上を図る。	B	B	
			教務と連携し、教育課程や生徒の実態に応じた、また、生徒の自主的な学習を促す課外や土曜活用講座を実施する。放課後課外の新しい実施方法について検証・検討を重ねる。	B		
			課外、土曜活用講座の遅刻・欠席者について、各学年における指導態勢の構築と、受講率の向上を図る	B		
			校内模試・外部模試の実施内容・方法について検証・検討をし、生徒の学力把握、進学意欲・学習意欲の向上を図る。	B		
	進路資料室の環境や資料の充実により、生徒による進路室の有効活用を推進する。		B			
	キャリア教育課	様々な活動を通して、進路意識や社会に対する関心を喚起し、進路決定に必要な能力や知識を習得し、適正な勤労観や職業観を育成する。特に、3年間を通じた小論文指導の充実に向けた体制整備を図る。	1年生では、「中学生から春日生へ」「小論文基礎講座」「テーマ別学習」を通して、聞く力、話す力、書く力を身につけさせ、自分の進路を考える一助としたい。豊かな人間性を持った生徒を育成する。	B	B	
			2年生では、「課題研究」「ライフプラン」を通して社会問題への関心を高め、調べる力、考える力を養う。また、大学の学問との繋がりを意識させ、自分の進路について考えさせる。プレゼンテーション等を通し、主体的に探求し発表する力を身につけさせる。高い志をもった生徒を育成する。	A		
			3年生では、将来の進路に対する考え方が明確になるように、進路指導課と協力し、生徒に適切な勤労観を育む。また、進路目標に対し最後まであきらめさせない体制を作る。逆境を跳ね返す心身ともにたくましい生徒を育成する。	B		
3年間を通じた小論文指導計画を作成し、まず文章を正しく書く力を身につけさせる。さらにテーマ別学習を実施し、社会問題の正確な理解に基づいて論述できるように指導する。			B			
看護体験やジュニア学芸員など、外部での体験活動等に積極的に参加させることで、興味深い学問の世界や様々なものの見方、考え方に触れ、自己の在り方を深く考えさせ、進路意識を向上させる。			B	B		
学年にふさわしい講演会や講座を企画運営し、社会に対する意識や自己探求への意識の向上を図る。		A				
大学のオープンキャンパスへの参加は日程の通知など組織的に運営し、近い将来の目標である進学先への関心を深め、進路意識を向上させる。		B				
外部組織との連携による可能な活動を模索し、生徒のあり方生き方に対する考え方や進路意識を育む。		各学年のキャリア計画が効果的な活動になるよう、各活動で反省記録を残し、生徒にとってよりよいものとなるようにする。	B	B		
		各部・各学年・教科との連携を強化する。	B			
		新きらめき委員会との連携を密にし、新きらめきアンケートから見える生徒の実態に即したキャリア教育を検討する。	C			
					<ul style="list-style-type: none"> ・1年生のテーマ別学習が自らの進路選択につながるように、書かせること、「社会を知る」こと、様々な職業について知ることのバランスを考えて、指導の内容を整理する必要がある。小論文指導のための教材が多く、実施時期や実施回数を検討するべき。 ・2年生の課題研究は教科ごとに設定された枠の中で生徒達が各課題に取り組むという形を取った。このことにより、指導する側も指導しやすく、生徒の研究内容が深まったと考えられる。 ・推薦入試やAO入試、また小論文を課す入試の増加により、3年生の小論文個別指導を希望する生徒は年々増加傾向にある。全先生方のご協力が必須なので、今後お願いしたい。 ・外部での体験活動に積極的に参加を促すために、特に参加を強く勧めるものは担任会等で周知させてから生徒に案内するとよかった。 ・1年生は京都大学講話、マナー講座、夢ナビ参加など、話を聴く機会が多くあった。生徒達はよく聴き、刺激を受けていた。 ・2年生の社会人講話は土曜日実施だったため、講師の依頼が大変であったが、結果的には生徒1人が2つの講話を聴ける時間的な余裕があったのはよかった。 ・反省記録をとり、引き継ぎを複数で行うこと 	

研修部	研修課	各分掌と連携して、本校教育の喫緊の課題に対応した職員研修の改善とその充実を図る。	学校教育活動のさらなる活性化と充実化を図るために、悉皆研修を効率よく実施するとともに、職員の指導力向上に資する職員研修を企画し実施する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・悉皆研修の他、AL、AED、高大接続、人権、電子黒板の各研修について、計画以外に付け加わったものを含め、充実した研修を企画・実施して、本校喫緊の教育課題に応えることができた。 ・校外研修は、進路研修と併せ、広く職員の参加を喚起する必要がある。 ・授業アンケートの処理については、情報処理に長けた職員配置が望まれる。またALの推進とともに、新たに各教科の評価規準・評価基準の作成と、生徒の自己評価・相互評価の実施が課題になってきている。「主体的・対話的で深い学び」を支援するための新たな評価の在り方を開発することが急務である。 ・相互授業参観や研究授業は、教科でその実施の状況に温度差があるため、AL推進とともに、各教科での主体的な推進が課題である。 ・本年度は初任研・2年研・5年研等の基本研修、AL推進等の数多くの研修資料が用意できた。完成を急ぎ、3月中の全職員配布が課題である。 ・次年度も現在10名を超える実習生の申込がある。事前指導を充実させて、混乱なく指導できる体制を築く必要がある。 	
			校外研修(教育センター・体育研究所等)の案内を適宜行い、外部事業との連携を図る。	A			
			授業評価アンケートの実施をとおして、学習指導の在り方を振り返り、自主性を伸長させる授業改善に活用する。	C	B		
			アクティブ・ラーニングを主題とする授業改善に全教科で取り組むとともに、授業評価アンケートの活用と相互授業参観をその改善の機会に積極的に生かすようにする。	A			
			保護者に公開授業の実施を早期に周知徹底することで参加を促し、本校の教育活動への理解を深めてもらうとともに、アンケートをとおして本校の学習指導の諸課題を明確にする。	A			
		「相互授業参観」「研究授業」の場を利用して、アクティブ・ラーニングを主題にした授業研究を全教科で行うことで、生徒の自主性を向上させ、自尊感情を抱かせる学習指導の在り方を模索し、その指導方法を共有して真の学力形成を図る。	A				
		研究紀要の内容の改善と充実を図る。	職員研修の総括や教育活動の様々な実践報告、個人研究の発表の場とすることで、本校の教育水準を上げることに寄与する。	B	B		
		教育実習の改善と充実を図る。	教科指導員との連携や調整を図りながら、教育実習生の事前指導の内容の充実を図ることで、教育実習生に対して学校教育活動の様々な指導を経験させ、将来の教育界を担う有為な後継者を育成する一助とする。	A	A		
	図書課	生徒の学年に応じた読書を促進させ、情報を収集する能力を養わせるため、適切な選書を行い、図書館の利用を活性化させる。また、図書館報などの広報を充実し、生徒の図書貸し出し数を増加させる。	新入生へのオリエンテーションを行い、教員お奨めの本を紹介しながら読書に親しみを持たせ、図書館の利用を促進させる。	A	B		<ul style="list-style-type: none"> ・学級文庫は昨年度の反省を踏まえ、生徒図書委員と担任の連携を取って管理を徹底させた。持ち帰りを禁止している都合上、休み時間などに気軽に手に取れる本を選ぶという工夫があった。 ・読書会は終業式の日に行われ、委員会活動としての位置づけを明確に生徒に示した上で、担任をはじめとする先生方にも周知することで欠席者も少なく、有意義な会とすることができた。 ・多読賞は、結果発表は3学期だが、中間発表をしたことで貸し出しが増えた生徒もいる。 ・今年度は2年生の課題研究でビブリオバトルや調べ学習が行われた関係で図書館の使用頻度は増えた。小論文関係の資料も増えてきたが、京都学術研究会との連携がまだ取れていない。
			各教科・分掌・部活動そして生徒の購入希望図書を把握し、年4回行う選書委員会を有効に活用し、適切な選書を行う。	B			
学級文庫を目的に沿ったものとし、生徒の読書活動を活性化し、豊かな感性を育てる。			B				
図書館報を充実させ、生徒の読書に対する意欲を喚起し、図書の貸し出し数を増やす。(年間貸し出し数3500、各クラス1年間で100冊以上)			B				
図書委員を中心に読書会を実施し、読書に対する意欲を喚起するとともに、内容を深めて理解させる。			A	A			
春日祭や中学生の学校見学等の学校行事で、図書委員会の活動を校外にも周知させ、活性化させる。		B					
公共図書館の訪問、生徒図書委員会合同研修会参加や生徒図書委員会による図書購入を行い、図書館のよりよい運営について考えさせる。		A					
図書館の広報活動に積極的に生徒図書委員を参加させる。		A					
「多読」賞を新設し、より多くの生徒が達成感を感じられる内容になるように工夫する。		B					
図書館の学校内での役割を考え、レファレンスの機能を果たす。		各教科・分掌と連携を図り、自学自習の場としての図書館の利用を促進する。	B	B			
	各方面から情報を収集し、図書館の小論文関係の図書や京都ハイレベル研修の資料を充実させ、蔵書リストの周知を図る。	B					
	購入した図書は迅速に貸し出しできるように、学校図書管理システム等を活用し、作業を進める。	B					

学年	1学年	「春日高校五常」の理解と実践を通し、基本的な生活習慣を確立させる。	出席皆勤を奨励し、99%以上の出席率と50%以上の皆勤率を目指す。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・欠席過多になる前の早期面談の実施、家庭との連携とともに、皆勤への意識付けを徹底する。 ・清掃は率先垂範を実践する。 ・挨拶はクラス個人の差あり。挨拶の意義を確認させる。 ・春日五常浸透の為の機会を増やす。 ・進路意識高揚の為の時間を全体でも、クラス、個人でも確保する。 ・授業前準備が授業の質の向上になる自覚を更に強く持たせる。 ・学習時間の減少が課題。自主的学習につながる良質な課題と学習の質を保障する授業の工夫も必要。 ・自己の課題を自ら見つけ解決する努力の大切さを全体でも個別でも徹底して指導し続けていく。 ・生徒会執行部、部活動生徒等の活躍の場を更に増やし、40周年を担う学校の中核としてのリーダーの育成に努める。 ・心視、HRを活用したキャリア教育が整理不十分なまま、生徒にも職員にも負担感となっている部分がある。意義ある活動なので、再度丁寧な見直しと成長を促す取組を工夫する。 ・成績上位者の早期意識付けとともに欠席過多・成績不振者の全体での早期把握と具体的対応を徹底する。 		
			率先垂範により毎日の清掃活動を徹底させ、美化意識を高揚させる。	B				
			明るい挨拶を進んで行わせ、良好な人間関係の構築に努めさせる。	B				
			「授業心得五行」を徹底し、自ら進んで学ぶ姿勢を育成する。	キャリア教育の実践を通し、高い志を持たせ、努力する意義を理解させる。	B		C	
				時間厳守の精神を徹底し、授業前準備を確実にに行わせる。	C			
				予習・授業・復習のサイクルを身につけさせ、平日2時間、休日4時間、週1000分の学習時間を目指す。	C			
				様々な活動を通して、創造の精神を持つ豊かな人間性を育成する。	部活動等への参加を奨励し、心身ともにたくましい人間を育成する。部活動等加入率85%以上を目指す。		A	A
				学校行事に自主的に取り組む意欲を育み、リーダーシップやコミュニケーション能力とともに、創造の精神を養わせる。	B			
				多様なものの見方に触れ、自己理解を深めながら仲間と協働する態度を育ませる。	キャリア教育の充実を図ることで、自己の適性について考えを深めさせ、将来への展望を持たせる。		B	B
					HR活動の充実を図ることで、クラス・学校への帰属意識を高めさせ、仲間や教師との強い信頼関係を構築させる。		B	
					欠席過多、成績不振への早期対応とともに、学習面でのリーダーの育成に努める。		B	
		学年	2学年	春日高校五常を理解し実践することで、春日生としての自覚をもって行動する。社会で通用する常識やマナーを身につける。	「継続は力なり」を記録することで生活リズムを整え、皆勤を目指す。不登校生徒への対応は学年で対応し、担任副担任協力してあたる。(克己の心)		B	B
	さわやかな挨拶をする。授業の開始時・終了時に大きな声で気持ちの良い挨拶をする。(感謝の心・素直な心)			B				
	5分前行動・時間厳守を日頃から守り、修学旅行につなげる。(克己の心・公共心)			B				
	日頃使っている学校に感謝の気持ちをこめて、掃除をしっかりとる。掃除をすることが「心を磨く」ことにつながることを粘り強く指導する。(感謝の心・思いやりの心)			B				
				「継続は力なり」を記録し、平日2時間土日3時間30分の勉強をする。週1000分は必ずする。	C	C		
				「授業には社会に必要なすべてがある」。「授業で勝負」できるよう授業準備を徹底させ、予習復習をして授業に臨む。	C			
				上位層・下位層に応じた指導をする。生徒把握のため学年進路検討会を学期に1回行う。	B			
				週末課題等の提出物は期限を守らせる。担任や教科担当の負担にならないよう、部活動顧問とも連携し、学年で指導する。	B			
				様々な活動を通して、心豊かな生徒を育成する。	生徒会長をはじめとするリーダーの発掘と育成のため、様々な場面で生徒に話をする機会を増やす。	B	B	
				クラスでグループワーク等を行うことで様々なものの考え方があることを理解し、思いやりの心で仲間と接する。	B			
				部活動加入率が高いことを生かしたい。部活中の姿勢が日常生活でも反映するような声かけをする。	C			
				校内外の活動を通して、進路について広く学習し、高い志を持たせる。	「京大プロジェクト」と連携し、学業面で核となるような生徒の育成、志の涵養。	B	B	
			オープンキャンパス参加も含めた実体験の場を体験させ、将来についてじっくり考え、第一志望を決め、その実現に向けて努力する。大学について学ぶことで小論文や面接の有用性を知らせたい。	B				
			「社会人講話」を通して、大きな志を持たせたい。	A				
学年	3学年	社会で信頼される人格の育成(春日高校五常の実践)	出席皆勤を奨励し、99%以上の学年年間出席率を目指す。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・1・2学期の出席率97.3%。不登校等の生徒に対する対応。 ・五常を全生徒・職員が共有して、校内だけでなく、校外においても実践できる生徒を育成する。 ・第2回生活時間調査での過年度比較では過去7年間で一番平均学習時間が高いが、1・2年次にもっと基礎を定着させる必要があった。 ・2学期は7限を面談・教員への質問等に活用することができて効果的だった。今後、休日登校などを含め自主的学習へのサポート体制を再検討する必要がある。 ・大運動会等の学校行事をとおして、成長している場面が多くみられた。今後、自ら考えて行動する機会をさらに増やしていけば、より多くの生徒がリーダーシップ・フォロアーシップを発揮してくれると考える。 ・第一志望届は動機づけのための効果的な取り組みの一つであり、面談にも活用できた。 ・3年生は会議等を開く時間がなかなか取れないが、情報交換をして共通理解を図ることは非常に重要である。 		
			元気な挨拶・全員参加の掃除・時間を大切にする態度を学校生活のあらゆる場面で率先して実践させる。	B				
			自主的学習を促すとともに、指導体制を確立する。(春日高校五行の実践)	生活リズムを安定させ、平日4(6)時間、休日5(10)時間、週30(50)時間以上の学習時間を確保させる。	B		B	
				居残り学習や休日登校などを奨励し、自主的学習をサポートできる指導体制を整える。	B		B	
				部活動等を最後まで粘り強く取り組ませ、県・九州・全国大会への進出をサポートする。	B		B	
				生徒会活動や学校行事への積極的な参加を促し、学校を牽引するリーダーシップ・フォロアーシップを育成する。	B			
				高い志を持った人間を育成し、第一志望目標達成にむけて努力させる。	第一志望届の大学などを最後まで諦めずに挑戦させるために、家庭・学校・生徒が一体となった進路指導を行う。		A	A
					教師間で進路に関する情報交換を積極的に行い、国公立大学推薦入試や後期試験までの指導体制を確立する。(目標:旧帝大 30名以上、国公立大 250名以上)		B	